

掃除も後輩たちの手本でありたい!

1年6組で過ごして1年が過ぎ、この教室を後輩たちに譲る時が近づいてきました。

今号では、みなさんがこの1年で身につけた掃除の方法や道具の片付けなど、「場を清める」ことについて振り返ってみたり、ちょっとした工夫について考たりしてみたいと思います。

道具の整理で掃除がわかる

右の写真は、6組の教室の掃除道具入れです。いつ開けてもこのように整っています。みなさんが、道具の始末について気を配り、整頓してくれるからです。

このようにきちんと道具の整理ができているということは、掃除もきちんとしていることを表しています。なぜなら、道具を整えるところまで気持ちが行き届いているということは、乱雑さや汚れにも気づくということだからです。



乾拭き雑巾も重ねて整理。

水ぶきは両手両足をつけて



廊下は水ぶきです。雑巾を掌の大きさに折って、四つんばいの姿勢で拭きながら下がります。両手両足をつくことで体が安定し、丁寧に拭けます。拭き方は、直線の折り返しとし、拭きムラを作らないようにします。そして下がりながら拭くことで、拭いた後を汚さないようにします。

また、廊下をほうきで掃く時は、ちりとりを持って掃き、ゴミをこまめに取るようにします。

教室掃除は黒板付近を特に丁寧に



四角い教室を丸く掃除したのではきれいになりません。教室掃除のポイントは、まず掃き掃除です。後ろのロッカーすぐそば、教室の両脇、ストーブ周り、前面の黒板付近をほうきの先を上手にを使って掃きます。ちりとりでゴミを取るのに、ちりとりを引きながら掃きこむ方法も身につけてきました。

雑巾の乾拭きは、板目に沿って往復しますが、黒板下はチョークの粉が落ちているので、特に念入りに拭き直します。



教室の中でいつもきれいにしておきたいのは黒板です。学習のポイントが黒板に書かれるわけですから、日直は休み時間ごとにきれいに拭いてほしいものです。

掃除の時は、特に曇りなく拭きあげ、チョークだまりを濡れ雑巾できれいにします。

授業に来てくださる先生が、気持ちよく板書できるようにしましょう。

教室出入口のレールもピカピカ！

教室前後の出入口のレールは、ゴミの溜まり場となり、拭かないと真っ黒になってしまいます。

濡れ雑巾で溝を丁寧に拭くことでピカピカになります。ちょっとした場所ですが、こびり付いた汚れが拭き取られると、レールが輝き、気持ちまで清々します。



「掃姿頭心」

「そうしけんしん」と読ませます。辞書にはない言葉ですが、掃除をする姿にその人の心がはっきりと頭れる（あらわれる）ということです。

掃除の姿というのは、見かけの格好良さとは無縁のものです。でも、人が一生懸命にきれいに行っている姿は美しいものです。そして何より、一生懸命やれば自分自身がすがすがしさや達成感を味わえます。そのことを後輩たちに姿で示したいですね。